

複数の教育はHIVと自己効力感のアウトカムを改善するが、経済的アウトカムへの効果はまちまちである



考慮されたすべてのタイプの介入に対するエビデンスは、HIV関連の知識、態度の向上、性的リスクテイキングリスクテイク行動の減少など、HIVのアウトカムにプラスの効果を示している。

このレビューの目的は何か？

このキャンベル系統的レビューは、ハイリスクの若者を対象としたHIVを減らすための6つの金融教育介入に関する11の研究をまとめたものである。

UNAIDSと世界保健機関(WHO)によると、HIVはアフリカにおける若年者の死亡原因の第一位であり、世界の若年者の死亡原因の第二位である。HIVの流行を食い止めるための世界的な公約は、子どもと若者に焦点を当てた戦略を取らなければ達成できない。経済的介入とHIVの削減を結びつける肯定的なエビデンスはいくつかある。

このレビューの目的は何か？

このシステムティック・レビューは、低・中所得国(LMICs)の青少年、孤児、脆弱な子どもたちのHIV感染の脆弱性を減らすことを目的とした、青少年への金融教育と複数の介入(金融教育と性と生殖に関する健康教育を組み合わせたもの)のアウトカム・エビデンスをまとめたものである。

このレビューにはどのような研究が含まれているか？

対象となる研究は、金融教育、貯蓄サービスの有無、社会的支援(メンタリングなど)の有無にかかわらず複数の介入を評価したものである。

実験的および準実験的研究手法が検討され、ベースライン時および介入終了後少なくとも6ヵ月間にデータが収集された。

10の介入を代表とする16件の中等度から高水準の研究が同定されたが、そのほとんどがサハラ以南のアフリカでHIVの脆弱な少女に焦点を当てたものであった。しかし、オッズ比のメタ解析は、同等の尺度を有する11件の研究(6つの介入に関する)に限定されている。

このレビューの主な知見は何か？

貯蓄の有無にかかわらず、金融教育・自己効力感支援を伴う複数の教育・貯蓄の有無にかかわらない金融教育など、検討されたすべてのタイプの介入に対するエビデンスは、HIV関連の知識や態度の向上、性的リスク行動の減少などのアウトカムにプラスの効果を示している。

エビデンスはまた、これらの介入による自己効力感の改善、人々が知識に基づいて行動することを可能にする自信と社会的条件の変化も示している。

しかし、いくつかの研究では貯蓄や貯蓄に対する態度の改善にプラスの効果があることが示されているが、一般的に介入は、資産などの金融経済的な成果の全範囲に対して混合した効果を示し、収入を得る活動への関与に対しては混合した効果を示している。



このレビューはどれぐらい最新のものか？

レビュー執筆者は、2017年1月までに発表された研究を検索した。

キャンベル共同研究とは何か？

キャンベル共同計画とは、系統的レビューを公表する、国際的、任意的、非営利的な研究ネットワークである。本組織は、社会科学や行動科学の領域における取り組みのエビデンスを要約し、その質を評価している。本組織の目的は、人々のより良い選択とより良い政策決定を支援することである。

この要約について

この要約は、Lee, N, Beeler Stücklin, S, Lopez Rodriguez, P, El Alaoui Faris, M, Mukaka, I. らが、Campbell Systematic Reviews. “Financial education for HIV-vulnerable youth, orphans, and vulnerable children: A systematic review of outcome evidence.”に基づき作成したものである。

この要約の作成のためのアメリカ研究機関からの財政支援に感謝の意を表す。

このレビューの結果は何を意味するのか？

本レビューは、複数の介入がLMICsの脆弱な若者や子どもたちの健康と経済的な成果に関連しているという増加しつつある証拠を支持するものである。しかし、エビデンスとしては、どの要素が好ましい結果を生み出すのに効果的なのかは明らかではない。

金融教育や資産形成と脆弱な若者の好ましい結果を結びつける資産理論は、一般的に想定されているほど明確ではない。

自己効力感についても不明であるが、脆弱性を軽減するための条件と、それをアウトカム観点から測定する方法の両方として重要であると思われる。

アウトカムへの経路と効果をよりよく理解するためには、経済的要素、健康的要素、自己効力感の要素を分離した質の高いエビデンスが、より多くの場合に必要である。

混合研究法と質的研究方法は、HIVの影響を受けやすい青少年、孤児、その他の脆弱な子どもたちの資産と自己効力感をどのように構築するかについての理解を深めるために、実験的研究を補完する重要なものとなるであろう。



AMERICAN INSTITUTES FOR RESEARCH®



International
Initiative for
Impact Evaluation